東高 国際だより

平成２６年１月９日
京都府立東舞鶴高等学校
国際教育部発行
2014 vol. 9

第 39 回近畿ブロック高校生国際交流セミナー2014 報告（12 月 26 日）

近畿地区高校国際教育研究協議会と JICA によって、グローバルな視点を持って行動できる高校生を育成するためのワークショップが京都で開催され、東高生６人（１年生２人、２年生２人、３年生２人）が参加しました。

舞鶴引揚記念館のユネスコへの登録署名活動やシベリア抑留経験者への取材を通して学んだことを、日本語と英語で発表しました。今回は、多くの高校生に訴えることができて良かったです。

アフリカの留学生が、母国の地理や文化について話をしてくれました。アフリカでも、国によって文化が大きく異なることを知り、実際に自分の目でアフリカを見たくなりました！

Barnga というゲームをしながら、日本にいる外国人の気持ちや外国へ行って異文化体験をした場合のシミュレーションをしました。グローバルな視点を持って生きるために大切なことを楽しく学ぶことができました！

３年国際文化コース日本文化体験学習報告（12 月 10 日）

総合学習「日本文化」の授業で、青葉さんろく公園内の陶芸館における陶芸体験学習が行われました。日常生活のみならず、茶道や華道などの日本の伝統文化にも密着して発展してきた陶器を制作するという貴重な体験ができました。

感想

- ○日常生活でなんとなく器を普段使用しているが、これからは物を一から作ることの大変さやありがたさをかみしめながら生きていきたいと思う。
- ○陶芸の楽しさと難しさを知る良い機会となった。完成までに２カ月かかると聞き、時間と手間がかかるものだと知った。
- ○私たちが行ったのは第１段階の成形だけで、この後に焼きなど多くの工程があることを知り驚いた。

なかなか思い通りの形にならないなあ。

英語・クリスマスレッスン報告

AET の Alex 先生が、故郷カナダでのクリスマスの様子を１年生の英語の授業で紹介してくれました。クリスマスに関する表現を学んだあと、クリスマスにちなんだ絵を英語で説明したり、聞いた英語を絵で表したりしました。また、クリスマスの願い事やメッセージをカードに書きました。

What is your Christmas wish?

「国際だより」は下のＱＲコードからもアクセスできます。

お知らせ

英国ポーツマス市訪問青少年英語研修募集

期間：平成２７年３月２１日（土）～３月３０日（月）
研修場所：ポーツマス市　Meridian School of English
定員：１０名（応募多数の場合は抽選）
参加者負担費用：132,000 円（予定）
（渡航費総額 397,800 円のうち約 2/3 は舞鶴市が負担）
応募資格：舞鶴市内在住の中学２年生から高校２年生までの生徒で、今年度の１学期と２学期の英語の評定平均値が５段階で４.０以上　等
＊詳細は、NPO 法人　舞鶴国際交流協会まで

前回の国際だよりでも紹介したとおり、東高生も毎回参加している研修です！
舞鶴市への応募締め切りは、１月２０日（火）１７時です。英語の成績証明書が必要なので、希望する場合は今すぐ準備を始めよう！

異文化の風　このコーナーでは様々な国や地域の文化についての情報をお届けします。

今回は理科教師でありながら、臨済宗のお寺の副住職もされている松嶋亮潤先生からです。

１０８つの除夜の鐘

「除夜の鐘」について少し話をしたいと思います。一年の最後の日、１２月３１日（大晦日）にお寺の鐘をつくのが除夜の鐘です。実際につきに行った人も、行っていなくても冬空に鐘の音を聞いた人はいるのではないでしょうか。

「除夜」というのは、先祖と家族に一年の無事を感謝して、夜を通して過ぎゆく年を惜しむという意味です。そんな夜につく鐘が除夜の鐘で、人間の持っている煩悩の数と同じ数だけ１０８回つき、１つ１つの煩悩を鐘とともに打ち消していくというのは皆さんご存知かもしれません。

じゃあ、その１０８という数字はどこから来たのか知っていますか？人間の煩悩を１０８つに数える数え方は、人間の感覚と意識（眼（見る）・耳（聞く）・鼻（嗅ぐ）・舌（味わう）・身体（触れる）・意識（考える））の６つ（六根）に対して、そこに好・悪・平（好き・嫌い・どちらでもない）という３つの関係（三不同）があり、またそれぞれに染と浄（悪い影響と良い影響）の２つの影響があるから、６×３×２＝３６種類の悩みや苦しみになる。この３６にそれぞれ三世（過去・現在・未来）の３種があるので、合計すると１０８になります。（この数え方には他にも色々な説があります。）麦わら帽をかぶった海賊の、３本刀の仲間が空島で技を放った時にも、ちゃんと本人が説明しているので是非確認してみて下さい。

大晦日の夜に打ち鳴らす１０８回の除夜の鐘は、この１０８の煩悩を清めるためのものです。特に、１０７つ目は、ゆく年の最後に煩悩の火が消えたことを告げ、１０８つ目は、新しい年を迎えて、煩悩にまどわされないよう、新しい決意を告げる鐘の音であります。次の年末に、もしこのことを覚えていたら、少し除夜の鐘に耳を傾けてみてください。

次回の「国際だより」は、２月１０日頃に発行する予定です。